



川崎市岡本太郎美術館蔵

中村正義

源平海戦絵巻 第四回『修羅』1936

東京展

『傷ましき腕』1936/49

岡本太郎



東京国立近代美術館蔵
(展示期間は8月30日まで)



山下菊二

『チリ・〇〇〇』1975

神奈川県立近代美術館蔵



八王子市立美術館蔵
小切手「チリ」1975

四谷シモン

『未来と過去のイヴ』1973
撮影 篠山紀信



寺山修司

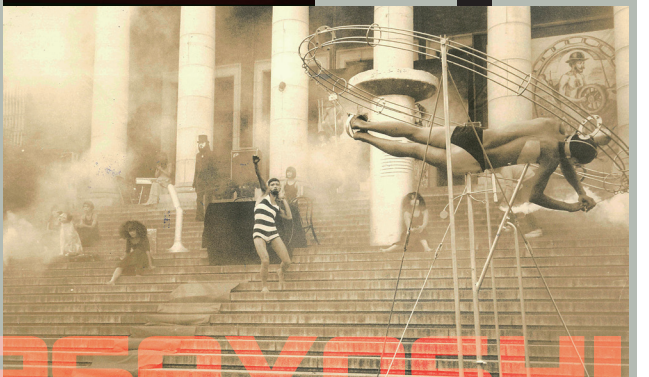
写真提供 トラヤマワールド
1975

旧態依然とした日本の美術界に播さぶりをかけるため、中村正義が構想し、文字通り自らの身命を賭して実現させた「東京展」——その目指すところは、全く新しい美術の共同体・組織の在り方でした。1946年、日展に初入選し、二度にわたる特選を経て審査員に推挙された中村正義(1924-1977)は、閉塞的な日本画壇に疑問を持ち、将来を嘱望されながらも日展を脱退。以後それまでの画風を一転させ、日本画の伝統美に抗う激しく挑戦的な作風を展開しました。

正義よりも一回り年長の岡本太郎(1911-1996)は、1941年に10年余り滞在したパリから帰国して二科展を活動拠点とします。1948年には評論家の花田清輝らと総合芸術運動を目的とした「夜の会」を結成し、日本の芸術界全体の変革を目指しました。ここから太郎はアヴァンギャルドの旗手として美術の領域すら逸脱する多面的な活動を展開します。

若い画家たちとともに二科会内部からの変革を模索していた太郎が会を退いたのは1961年——奇しくも正義が日展を脱退した年でした。以後、太郎は縄文土器や民俗学への探求をはじめ、モニュメンタルな壁画や立体造形など、ジャンルを越えた活動を行い、正義もまた多様な素材を用いた制作を行うほか、映画や舞台、写楽研究など、さまざまな分野に関わりました。そうした多面性と反逆精神こそが両者に共通する要素であり、東京展の精神へと結実していったといえるでしょう。正義を核として集った多様なジャンルの作家たちからの声掛けに、大阪万博などですでに知名度の高かった太郎が快く応じ、その祝祭的空間により一層強烈なエネルギーを注ぎました。

本展は太郎と正義の代表作を展覧するとともに、二人の接点である東京展の再現を通し、彼らが求め、構想した「東京展」とは、何であったのか——、さまざまな角度からのアプローチを通して今一度検証したいと考えています。



TARO vs MASAYOSHI

イベント

- ①記念座談会「<東京展>とは何であったか」 9/6(日)午後2時〜
出席者=笹木繁男(現代美術資料センター主宰)ほか第1回東京展出品作家
- ②ギャラリートーク 8/8(土)、9/5(土)午後2時〜
講師=川崎市岡本太郎美術館学芸担当課長・仲野泰生×豊橋市美術館担当学芸員
- ③ワークショップ「“これからの自分”の顔をつくる」 8/12(水)午後1時30分〜
講師=柴田英里(造形作家) 対象=小学生 参加費=500円
- ④ナイト・ミュージアム「探検!夜の美術館と平家の怪談」 8/14(金)午後6時30分〜
話し手=林吉子(前芝おはなしの会)+ブラックパネルシアター 対象=小学生とその保護者 定員=40名
- ⑤琵琶演奏会「平家物語」のタベ 8/15(土)午後6時30分〜 演奏=北川鶴昇
- ⑥中学生美術体験プログラム「夏休みアート・スクール」 8/18(火)〜22(土)
講師=北村章(造形作家)、佐藤玲子(川崎市岡本太郎美術館学芸員)ほか 対象=中学生 参加費=500円
- ⑦映画上映会「中村正義・父をめぐる旅」 8/23(日)・9/13(日)午後2時〜
- ⑧「絵とピアノが織りなす即興絵巻コンサート」 8/28(金)午後6時30分〜
演奏者=はちまん正人(ドラマティック・ピアニスト) 定員=40名 共催=豊橋市美術館友の会
- ⑨ダンス・ワークショップ 9/20(日)午後2時〜
講師=中嶋夏(舞踏家) 対象=5才以上の知的障がいの方(自分で立てる方)、付添いの方、健常の方

※③④⑤⑥⑧⑨要申込、②④⑤⑥⑧観覧料必要、①⑦⑨参加無料
※申込受付=⑥受付中、③④⑤7/17、⑧7/22、⑨7/24より
※その他、詳細はホームページをご覧ください。



【交通案内】
JR・名鉄「豊橋」駅より路面電車(市電)乗車
「豊橋公演前」下車、徒歩3分

TOYOHASHI CITY MUSEUM OF ART & HISTORY
豊橋市美術館

〒440-0801 愛知県豊橋市今橋町3-1 (豊橋公園内)
TEL:0532-51-2882 FAX:0532-56-2123
http://www.toyohashi-bihaku.jp/

中村正義「おねえちゃん」部分
1968 愛知美術館蔵

